

## カルティベート

「ひと」を原点に据えて地域や職場の活性化をサポートするコンサルタント会社「カルティベート」。これまで竹富町や北大東村など、多くの離島活性化事業を行ってきた。今回は、琉球大学法文学部卒で11年前に起業した開梨香社長(51)に話を聞いた。

—起業したきっかけは。  
「子どもたちの交流・育成が大学時代からのライフワークだった。県内文化施設13館の展示工事を手掛けたが、その後の運用面に関われないもどかしさがあった。ハコだけでなく、まずは人を活性化したいとの思いが会社設立につながった」

—主な仕事内容は。  
「地域資源を生かすツーリズムを基礎にした地域振興だ。自然体験プログラムや特産品の商品化、ガイドブックやホームページの作成などを通して、経済・観光・人の活性化をお手伝いする。例えば、北大東では月桃のコースターやバッグなど特産品づくりで活性化した。『切り開く』をモットー

この人に聞きました

開梨香さん(社長)



「『切り開く』がモットー」と語る開梨香さん(12日、那覇市安謝のカルティベート)

### ◆やりがい 触れ合った人々の成長

#### ◇学生へのアドバイス 粘り強さが大事

に、地域活性化の新しい分野、スタイルを生み出すべく取り組んでいる」  
—つらいとき、苦しいときはどうやって乗り越えるか。  
「悩めば悩むほど現場に出掛け、人と会い、知恵を出し合う。現場主義を貫いている。間違っても、諦めない限り失敗はないと思う。失敗したことをヒントに成功に導ければいい。粘り強くやるのが大事だ」

—原動力や、働く喜びは。  
「地域活性化を続ける中で触れ合った人の変化や成長を見る喜びが原動力だ。私も含め、人は死ぬまで発展途上だと思う」

—女性として活躍する中で、不利に感じたことは。  
「男性は厳しく育てられるぶん成長が早いので、女性は男性以上の努力が必要。家事や子育てとの両立も大変だが、ネガティブにならないことが大切だ。『なぜ』と悲観するのではなく、『どうしたら』できるかを考えるべきだ」

—仕事をを行う上で意識していることは。  
「誠実に仕事をする事だ。最善を尽くして最大の効果を挙げられるように、進んでプラスアルファの仕事をする。言われたことだけをやると『作業』、考えてやるのが『仕事』になる。常にアンテナを張り、全てのものが見えるように意識している」

(第2、4水曜日に掲載)

### カルティベート

会社概要・採用計画 有限会社開を2000年に設立。07年に株式会社カルティベートに社名変更した。資本金1500万円。年間売上高4440万円(10年5月実績)。社員は5人(うち女性3人)。「沖縄ならではの」を意識した地域振興のコンサルティングおよび人材育成を目指す。国や自治体による地域活性化事業を多数受注した。スタッフは適宜募集している。



就勝ノートは琉球新報モバイルからご覧いただけます。



#### 取材しました

富田 ともみ (琉球大学法文学部3年)

アクティブに活躍する女性起業家に憧れ、開梨香社長に話を聞いた。「世の中全てがサービス業。『自分が好きでやりたいこと』を、『人が求めていること』につなげる」という開社長の言葉に納得し、「人に喜びを提供するために

何をやればいいのか」を考え続けていきたいと思った。これはどの職業にも言えることだと思う。今は視野を広げるためさまざまなことに挑戦したい。

